

教育ながの

—長野県教育委員会メールマガジン—

第 598 号
平成 24 年 9 月 20 日

6. あとがき
5. イベント情報・お知らせ
4. 現場レポート
3. 今、学校では
2. 特集
1. ひなば

教学半
ひなば

教学指導課長 武田 育夫

2.

特集

平成 24 年度 全国学力・学習状況調査の結果の概要

第 2 次長野県教育振興基本計画素案について

「教育に関するアンケート調査」結果概要

→教員意識調査 V.O.I. 2 →

教育総務課

教学指導課
教育総務課

短歌・俳句作りを通して表現力を育む

塩尻市立吉田小学校

現場レポート

『熟議』で学校を変える！

→上小小中学校事務職員研修会 『熟議』研修

【10年後の学校を考えよう】 より →

教育総務課

うるは学ぶの半ばなり」

教えるということは、学業完成の半ばなのであるから、人に教える立場になつても、たゆまず学び続けることが肝要なのである、という古人の教えがある。

教師は教育のプロフェッショナルなのだから、学び続けて、より高みを目指すのは当然のことのように思える。プロ野球の選手で修練を積まない人がいるはずもなく、プロである限り教師は研究と修養に努めなければならない。

しかし、この当然と思えることが、なかなかできにくい状況が学校現場はあるようだ。その要因はいくつか考えられる。

一つには、教師に期待されることが広範囲に渡り、**学ぶべきことが過剰**になつていていること。学んだとしても、すぐには結果に結びつかないことも学ぶ意欲を削いでいるかもしれない。また、学校からかつてのようなゆつたりとした時間が喪失し、学ぶための**物理的な時間が不足**していることも要因として考えられる。そのことは同好会等自主的な研修組織の弱体化や、切磋琢磨するような校内研修の減少にもあらわれているように思う。

しかし、子どもや保護者・地域の方々に信頼されるのは、やはり「**学び続ける教師**」である。**教育は感化響応の世界**である。常に真摯に学ぶ教師の姿は、必ずや子どもたちに影響を及ぼすだろう。

教師が学び続けられるようにするために、できる限りの努力をしたいと思う。



特集

平成24年度 全国学力・学習状況調査の結果の概要

教学指導課

今

回の全国学力・学習状況調査には、抽出された国公私立約9,700校の約76万人が参加しました。長野県では、小学校72校、6年生3,933人、中学校44校、3年生4,527人が抽出調査に参加しました。

調査は、教科に関する調査では、国語と算数・数学、理科の3教科の基礎的知識を問うA問題と、知識の活用する力を見るB問題で実施されました。また、児童生徒や学校を対象とした質問紙調査も実施されました。

教

科に関する調査結果の概要是次のと

◆平均正答率は全国平均と同程度に回復
◆上記の平均正答率は、22年度には中学校国語Bと数学A・Bで全国の平均正答率を下回っていましたが、今年度は、下回る教科はなく、小・中学校国語Aで、全国の平均正答率を上回りました。（表1）

◆正答数の分布状況は、上位層が全国と同様の分布に

◆「正答数分布グラフ」を見ると、22年度には上位層が全国よりも少なくなっていましたが、今年度は、隔たりのあつた中学校国語Bと数学A・Bにおいても、全国と同様の分布になりました。（図1）

- ◆知識・技能を活用する力に課題
- ◆B問題の平均正答率は、全国と同様に56割にとどまりました。本県でも全国と同様に、知識・技能を活用する力に課題がみられました。

◇平成24年度と平成22年度との小学校国語A

【平成24年度】

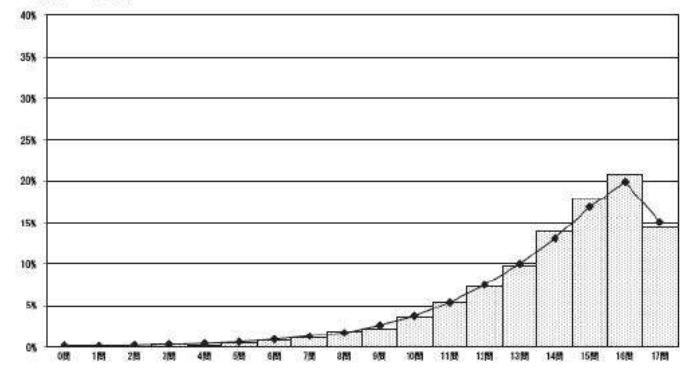


図1：平成24年度及び平成22年度の正答数分布グラフ。
(画像をクリックすると詳しくご覧いただけます。)

	教科	長野県	全国(公立)	全国との差
小学校	国語 A	81.8～83.0	81.4～81.7	↑
	国語 B	54.9～56.7	55.4～55.8	→
	算数 A	72.4～74.1	73.1～73.5	→
	算数 B	57.6～59.6	58.7～59.1	→
	理科	60.3～62.0	60.8～61.1	→
中学校	国語 A	75.6～77.0	75.0～75.2	↑
	国語 B	62.6～65.0	63.2～63.4	→
	数学 A	61.2～63.5	62.0～62.3	→
	数学 B	47.1～50.4	49.2～49.5	→
	理科	49.7～52.2	50.9～51.1	→

表1：平均正答率の一覧。

↑：全国を上回る →：全国と有意な差はない

児

童生徒質問紙調査、学校質問紙調査の結果概要是次のとおりです。

◇ 地域行事への参加や、近所の人への挨拶等の項目において、全国の割合を上回ることから、**地域との関わりが深い実態が伺えます。**

◇ 理科の授業での観察・実験について、「結果をもとに考察をしている」等の複数の項目でいざれも全国の割合を上回ったことから、**観察・実験を重視した学習が行われている**と考えられます。

◇ 学校図書館を活用した授業を計画的に週1回程度行った小学校が、全国に比べ、40ポイントほど高い割合になっています。図書館を活用した授業を行う頻度が高い実態が伺えます。

考

察と今後の方針は次のとおりです。

◇ 基礎的・基本的な知識・技能を問う問題に誠実に取り組む児童生徒が多く、このようないい問題での正答率が高くなっています。授業における「見とどけ」を重視する取組を大切にし、知識・技能の定着を今後も図られるようにしていきます。

◇ B問題の「記述により説明する」と「に課題が見られます。授業において、事象の結果に至る過程を説明する学習活動などをより多く位置付けて、**言葉で説明する機会を増やしていく**ます。

◆ 詳しい分析結果等については、8月30日頃の授業の中で、追究過程を大切にした授業を進めていきます。

日開催の長野県教育委員会定例会「平成24年度全国学力・学習状況調査結果の概要について」を参照してください。
<http://www.pref.nagano.lg.jp/kenkyo/t/eireikai/946/946-8.pdf>

■お問い合わせ
教学指導課 義務教育指導係
Tel : 026-235-7434
Fax : 026-235-7495
e-mail :
kyogaku@pref.nagano.lg.jp



特集

第2次長野県教育振興基本計画素案について

教 育 総 務 課

長

野県教育委員会では現在、平成25年度～29年度の5年間の教育行政の方向を示す第2次長野県教育振興基本計画を策定しています。

「学ぶちから・学校力専門委員会」からの提言や教育に関するアンケートの調査結果、7月から8月に実施した市町村教育委員会と省教育委員会との懇談会（県下5地域）での意見等を踏まえて、第2次長野県教育振興基本計画素案を策定しました。9月13日の長野県教育委員会定例会で検討をいただき、現時点での中間整理として承認されたものとなります。

今後、この素案により、市町村教育委員会や教育関係団体等から意見をいただき、11月を日程に計画原案をまとめる予定です。

◆素案にはどのよつたなことが記載されているの？

◆計画の素案の構成は次のとおりです。大きくなれば、長野県の教育を取り巻く状況を示した「時代の潮流と教育の課題」、未来の信育振興の方向性、今後5年間の施策や重点的に取り組むプロジェクトを示した「基本計画」等から構成されています。

◆長野県の教育にはどのような特徴、強みがあるの？

◆計画で活かすべき長野県のポテンシャルとして、次のような事項が示されています。長野県が「教育県」と呼ばれる理由の一端をうかがうことができます。

・**教育を大切にする風土と県民性**

→明治初期の就学率が全国一、県外から高給をもつて優秀な教員を招聘、

全国一の公民館の設置数や利用者数、国に先駆けた小学校全学年における30人規模学級の導入等

・**活発な体験学習**

→学校における地域資源の活用、集団登山等の多彩な学校行事

・**伝統を受け継ぐ地域**

→伝統文化の传承、新たな芸術文化を創造する活動

・**第1編 計画策定の基本的な考え方**
(策定の趣旨、計画の性格、期間)

・**第2編 本県の教育をめぐる情勢**
(時代の潮流と教育の課題、教育のポテンシャル(潜在力・可能性))

・**第3編 長期的な教育振興の方向性**
(基本理念、「未来の信州」のめざす教育の姿)

・**第4編 基本計画(今後5年間の施策)**
(基本目標、重点的に取り組むプロジェクト、施策体系、施策の展開)

・**第5編 計画の実現に向けた基本姿勢**

◆今の私たちの教育はどのような環境に置かれているの？今後必要なことは？

◆第2編では「大きな時代の流れと教育の課題」が示されています。

・**到来した人口減少社会**

→学校規模縮小・「ミニユーティの活力

・**低下への対応**

→多様なライフスタイルが実現できる環境づくり

・**価値観の変化**

→グローバル化・情報化の進展

・**自然と人とのかかわりの再認識**

→防災教育、環境教育

・**貧困・格差の拡大**

→必要な教育機会を得ることのできる環境

◆長野県はどのような教育をめざすの？

- ◇時代の転換点を迎える中で、今生まれた子どもが成人するときに、「どのような長野県を引き継ぐべきか」という思いの象徴として、概ね20年後の方向が「『未来の信州』」のめざす教育の姿」として示されています。

- ・「人間力を養う教育」
- ・「楽しく安全・安心な学び舎」
- ・「自然の中でたましく成長」
- ・「個性を輝かせる子どもたち」
- ・「常に学び自ら活かす社会」
- ・「人生を彩る感動との出会い」

◆第1次計画との大きな違いは？

- ◇第1次計画の施策体系と大きく異なる点は、「**信州に根ざし世界に通じる人材の育成**」を基本施策の柱として掲げた」とです。「学ぶから・学校力専門委員会」の提言等を受けて、キャリア教育や外国語コミュニケーション、理科教育の充実により世界標準の人材を育てる教育を打ち出しています。また、長野県ならではの教育を推進する方策として、「(仮) **信州教育スタンダードの推進**」を重点プロジェクトに掲げています。

- ◆スタンダード設定の視点
 - ・長野県の特長やポテンシャルを活かした教育
 - ・長野県民としてのアイデンティティを育む教育
 - ・優れた教育水準

◆計画素案全体について、ご意見、ご質問も受け付けておりますので左記アドレスまでご意見等をお寄せください。

◆計画素案に対するご意見、ご質問も受け付けておりますので左記アドレスまでご意見等をお寄せください。
<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyouiku/kyousamu/keikaku/0920soan.pdf>

◆計画素案に対するご意見、ご質問も受け付けておりますので左記アドレスまでご意見等をお寄せください。
kyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp
kyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp
kyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp

■お問い合わせ

教育総務課 企画係
Tel : 026-235-7423
Fax : 026-235-7487
e-mail :
kyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp



特集

mini

「教育に関するアンケート調査」結果概要

教育総務課

育に関するアンケート調査特集第3号です。

今月は『教員勤務実態調査

号です。』として、誰もが気にな

るテスト問題の作成方法や成績のつけ方に

注目します。

◆詳しく述べ
<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyouiku/touseikai/940/940-2-2.pdf>

◆学生生活で避けて通れないのがテスト。そのテスト問題はどうやって作るんでしょうか?

◆定期試験の問題作成に当たっては、小中高等学校で共通して「教科書から問題を出す」や「学校で使っている問題集・副教材などから問題を出す」割合が高いことが分かれました。

◆中学校では「入試問題に

対応した問題を出す」とする回答も多くあ

り、全国と比較すると、教科書や副教材、

ノートに書かせた内容から出題する割合が

低い結果となりました。前年度の定期試験

から問題を出す割合は小中高等学校で共通して低く、小学校、高校においては、学校で使わない問題集や副教材などからの出題もあまりないようです。

◆第2次教育振興基本計画について
<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyouiku/kyousumu/kohou/mai/597.pdf>

◆次回は『保護者意識調査』に注目します。
◆先生のせっせと見る「教員勤務実態調査」概要
<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyouiku/touseikai/940/940-2-2.pdf>

◆忙しさや授業内容をみると「教員意識調査」概要
<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyouiku/kyousumu/kohou/mai/597.pdf>

◆なるほど。では通知票をつけるときにもやはりテストの結果が重視されるんでしょ
うか?

◆通知票をつける際には、小中学校では「定期試験」と並んで、「授業中の態度」や「宿題や提出物の状況」といった**日常的な学習態度**を重視する傾向が強いことが分かりました。中学校においては、全国と比較して「授業中の態度」を重視する傾向が高く、「定期試験」を重視する割合は低くなりました。高等学校では約8割の教員が「定期試験」を「とても重視する」という結果です。

◆前号では多くの教員が児童・生徒の学習意欲を高めるために工夫しているというこ
とをお伝えしましたが、今回の結果からも日々の授業を大切にする教員の姿が窺い知
れます。

■お問い合わせ

教育総務課 企画係
Tel : 026-235-7423
Fax : 026-235-7487
e-mail :
kyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp



次へ
戻る

短歌・俳句作りを通して表現力を育む

塩尻市立吉田小学校



ちごちごギャラリー。
みんなの力作が勢ぞろいです！



全校短歌・俳句集会での発表

塩

尻市立吉田小学校では、地域の特色を生かしながら、感性や言葉を磨くことを願って、年間4回季節毎の短歌や俳句を募る「校内文学コンクール」を実施しています。今年の夏までで、22回と回を重ねてきました。個人での投稿に加え、クラス全体での取り組みも増えてきていて、最近は応募が400首を超えることもあります。

それから、「塩尻文芸の会」会員の先生に入選作を選んでいただき、入選作品は地元の書家の先生に毛筆で書いていただき、短冊にしてギャラリーに展示しています。また、子どもの短歌や俳句を入れた賞状も授与しています。

- ◆最近のコンクールからいくつかを「紹介します」
 - ◇「こうえんで ころんでもいたら となりにね てんとう虫が いっぴきいたよ」(2年)
 - ◇「タラの芽と ウドの葉っぱと アスパラの 天ぷら食べた 春をまんきつ」(5年)
- ◆小学校 最後のサクラ 制服で見る (6年)
- ◇広い海 なみがざぶざぶ たのしいな ぼくのうきわで パパおおはしゃぎ (2年)

と、子どもらしい澄んだ感性で、生活や発見、驚きや感動を表現しています。廊下展示した作品は、保護者の皆様にも好評で、参観日の折り、「我が子の作品を見ながら」「このうきわのパパは私なんですよ」と嬉しそうに学校職員にお話して下さった保護者もいました。

本

校では、学校のスローガンに「**あいさつと交流・短歌の吉田小**」を掲げております。塩尻市の開く短歌フォーラムに合わせて、校内でも、「全校短歌・俳句集会」を開いています。6年生が、1年間の吉田小の活動を詠んだ短歌や俳句をコンクール入賞作品も交えて披露しています。集会には、講師をお迎えして、短歌や俳句の作り方を教えていただき、その後、教室で短歌や俳句作りをします。

また、日頃の学習や行事のまとめの1つとして、短歌を活用する取り組みも広がってきています。

これらの試みを通して、子ども達が、互いの発見や感動を学び合い、表現力を育んでいます。

■お問い合わせ
塩尻市立吉田小学校
〒399-0701
塩尻市広丘吉田 1097
TEL : 0263-58-0753
FAX : 0263-58-0747



現

場

レ

ボ

ー

ト

『熟議』で学校を変える！

↑上小小中学校事務職員研修会

『熟議』研修【10年後の学校を考えよう】より↑

先

生も子どもも多忙で疲れ切っているので、地域の力も借りて笑顔あふれる学校にしたい！」

「地域の方々が気軽に来られるような学校でありたい！」

『熟議』研修のクライマックス、グループ発表で、各事務職員が学校に対する想いを発表していきます。

「これ以上児童生徒数を減少させないためにも、子どもたちが大人になつてから故郷に戻つてくるような郷土愛が育まれるような学校でありたい！」

地域の切実な声も入り混じります。

◆『熟議』とは？

堅苦しくいうと、「教育政策の形成や教育現場の課題解決のツールとして活用される話し合いの方法」のことであり、文部科学省もこの『熟議』の普及を推進しています。学校、保護者、地域住民等で『熟議』することで、当事者意識を持ちながらお互いの立場を尊重し、理解を深め合い、学校の抱えている課題について認識を共有し、課題解決を進めていけることができれば理想的です。

◆きっかけ

「教育委員会のホームページで『熟議』開催マニュアルを見て、学校が地域の人とコミュニケーションをとるのにも役立ちそうなので、『熟議』を是非やってみたい！」と思つたんですが、なにせ『熟議』のやり方がわからなくて…。講師として来てもらえないでしようか。」

ある日、上小小中学校事務研究協議会の研修部長さんから連絡をいただきました。教育現場に『熟議』を広めていきたい我々としても、これはありがたい話。「行かせてもらいます！」ということで、この『熟議』研修が実現しました。

◆当日の『熟議』の様子

△アイスブレイクまずは、緊張をほぐすための「アイスブレイク」！グループごとに「バースデーリング※」を作りました。（※言葉を使わずに身振り手振りで自分の意志を相手に伝え、誕生日順に並ぶ。）



皆さん、羞恥心を乗り越え、見事に体で自分の誕生日を表現していました。



皆さん、いつの間にか立ち上がっていま
す！

- ◆課題の整理、解決策等のまとめ
- 課題出しが終わったら、今度は課題解決のためのアイデアを、ピンクの付せんに書き込み、同様に模造紙上に貼っていきます。
- そして2枚目の模造紙に、
- 「課題」
- ・「ありたい姿」
- ・「実現のための方策、アイデア」
- を書き込んでいきます。



類似する課題は、トランプの七並べ風にまとめて貼り、グループを作っていくま
す。

◆課題の出し合い

テーマに関する課題を黄色い付せんに書き込んでいきます。そして、ファシリテーターの進行で、1人ずつ書いた課題を読み上げながら、模造紙上に貼っていきます。

◆グループ発表

研修参加者の全員が、「10年後の学校はこうありたい！」と学校に対する想いを発表しました。

「地域と一体となつた学校」「快適で安全な学校」「子どもたちが楽しく通える学校」といった意見が多くたですが、中には、「給食費の未納ゼロ（給食費を全額公費負担に！）」「学校設備の修繕が可能な程度の予算確保」など、日頃の事務職員としての苦労がうかがえるような意見もありました。



会場は標高の高い真田町でしたが、当日はエアコンが必要なほど暑い日でした。
『熟議』も熱かったです！！

◆最後に

ある参加者から「なんだかすつきりした感じがしました。」という感想をいただきました。

普段何となく考えていることを課題として出し合いで、みんなで熟慮、議論し、互いの立場や果たすべき役割への理解を深め、解決策を見出し、その後の仕事などに役立てていければこんなに素晴らしいことはないと思います。

この研修に参加された上小中小学校事務職員の皆さんには、地域の方々に学校のこととよく知つてもらい、支援をいただくためにも、学校が抱える課題について、ぜひ一度、保護者や地域の方々と「熟議」してみただけたらなと思います。当日は熱

く真剣な『熱議』をあつがくじやくこせん
た。

(文責 教育総務課 石川直樹)

◆詳しく述べ

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyouiku/kyousoumu/koho/09report/report8.pdf>

◆熱議開催マーチ

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyouiku/kyousoumu/jukugi/jukugi.htm>

■お問い合わせ
教育総務課 企画係
Tel : 026-235-7423
Fax : 026-235-7487
e-mail :
kyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp



イベント情報・お知らせ

研修講座のご案内

◆長野県生涯学習推進センター

タイトル	日時	講義・実習	講師	会場	託児可	講師の紹介	開催場所	開催日程	講題	主催	対象	内容	備考
家庭・幼児教育講座「『昔話の心』と子どもの育ち」	10月22日(月) 10:00~16:00	講義Ⅰ「昔話の語り口の特徴」 講義Ⅱ「昔話が語るさまざま」	小澤俊夫 筑波大学 名譽教授 なし研究所所長 高木千奈美	小布施町公 民小館	民小館	セミナー「きらめきながら生きるため」	セミナー「きらめきながら生きるため」	10月27日(土) 13:00~16:00	生涯学習月間記念講座「地域づくり」 ために今何をするか	長野県生涯学習推進センター	一般	地域づくり	解説
天体観測講座「冬の星空を見よ！」	11月19日(月)~22日(木)のうちの1日 18:00~20:00	11月27日(火) 13:00~16:00	11月8日(木) 10:00~16:00	10月27日(土) 13:00~16:00	10月22日(月) 10:00~16:00	「心の壁を越えて～レツツ！バリアフリー～」	「動き出そう、今！明日の地域のために」	11月8日(木) 10:00~16:00	生涯学習月間記念講座「地域づくり」 ために今何をするか	長野県生涯学習推進センター	一般	地域づくり	解説
家庭・児童教育講座「発達障害の理解と支援」	鏡星空による星観察 「50cm大望遠	「発達障害の理解と支援」	天科総合教育観測部専門主事 サボターエンターテイメント教	総合教育部専門・特別支援教員 指導教員・セントラル支援教員	吉田博彦 NPO法人教育支援協会代 理理事	立教大学兼任講師 明治大学兼任講師 堀越喜晴 小澤俊夫 筑波大学 名譽教授 なし研究所所長 高木千奈美	小布施町公 民小館	託児可	セミナー「きらめきながら生きるため」	長野県生涯学習推進センター	一般	地域づくり	解説
天体観測講座「冬の星空を見よ！」													

※受講は無料です。なお、会場の記載がない講座は、当センターにおいて開催します。

目次へ
戻る

◆県体育センター（9月20日～10月20日開催分）どなたでも開催日の前日まで受講申し込み
みができます。

◇4月～9月（9月8日現在）までの研修講座受講率

47講座中27講座実施（定員950名）受講者数1,399名 受講率14.7%

タイトル	開催日	定員	会場	講師
（新）体育指導が苦手な先生のための研修（4）～ゲーム・ボール運動編～	9月25日（火）	15名	信州スカイパーク 信州スカイパーク 信州スカイパーク 信州スカイパーク 信州スカイパーク	信州大学教授 岩田 靖先生 体育センター専門主事
陸上運動の教材はこうやって作ろう	9月28日（金）	40名	※ク陸上競技場 雨天時体育館	
中高年のためのメタボ解消講座	9月29日（土）	40名	信州スカイパーク 信州スカイパーク 信州スカイパーク 信州スカイパーク	東京農業大学教授 上岡 洋晴先生 横浜国大教授 高橋 和子先生 横浜国大教授 高橋 和子先生 横浜国大教授 高橋 和子先生
高齢者のための運動プログラム	10月6日（土）	40名	信州スカイパーク 信州スカイパーク 信州スカイパーク 信州スカイパーク	体育センター専門主事
子どもが夢中になる表現運動・ダンスの指導	10月11日（木）	40名	信州スカイパーク 信州スカイパーク 信州スカイパーク 信州スカイパーク	
「松本大学との連携・公開講座」関係づくりに効果的なレクリエーション・ゲーム	10月15日（月）	40名	信州スカイパーク 信州スカイパーク 信州スカイパーク 信州スカイパーク	松本大学教授 川口 紀子先生
活動の振り返りを通して、自分に気づき、メンバー間の相互作用に光をあてながらコミュニケーションのスキルのアップを目指します。メンバーや間の相互通じで、自分に気づき、メンバーに気づき、グループに何が起こっているかなど集団内に生じるメンバーや間の相互作用に光をあてながらコミュニケーションのスキルのアップを目指します。				

長野県生涯学習推進センターでの研修講座

■お問い合わせ

長野県生涯学習推進センター

〒399-0711

長野県塩尻市片丘南唐沢 6342-4

Tel : 0263-53-8822

Fax : 0263-53-8825

e-mail : shogaigakushu@pref.nagano.lg.jp

長野県体育センターでの研修講座

9月の「一般体力測定」

■お問い合わせ

長野県体育センター

〒390-1131 長野県松本市大字今井 3443

TEL: 0263-86-0218 FAX: 0263-86-0204

ホームページ :

<http://www.pref.nagano.lg.jp/xkyouiku/taike/index.htm>

◆研修講座のお問い合わせ先

タイトル	開催日	定員	会場	講師
柔道技能講習会（2日間）柔道段位認定（3日間）	9月8日（土）	40名	信州スカイパーク ク体育館	日本ホリステイックコン ディショニング協会副理 岩間徹先生
（新）運動部活動実技指導 「バスケットボール」「卓球」	10月16日（火） 17(水)18(木)	各10名	長野県柔道連盟	
中学校新学習指導要領で必修化された武道「剣道」を指導するためには、安全で楽しい授業ができる資質と能力を養いましょう。	10月19日（金）	15名	化安公園市三郷文 體育館	
体育指導が苦手な先生のための研修（5）～表現力 ズム遊び・表現運動～編	体育の免許がない、体育が苦手。小学生で体育の指導に悩んでいる先生方に、是非、受講してもらいたい講座です。	信州スカイパーク ク体育館	諭塩事 田志学 玉高 雅美 分校 生教	中信教育事務所 黒田敏樹所 高樹所 雅美所 分校所 生教所 指導主 教主



イベント・募集

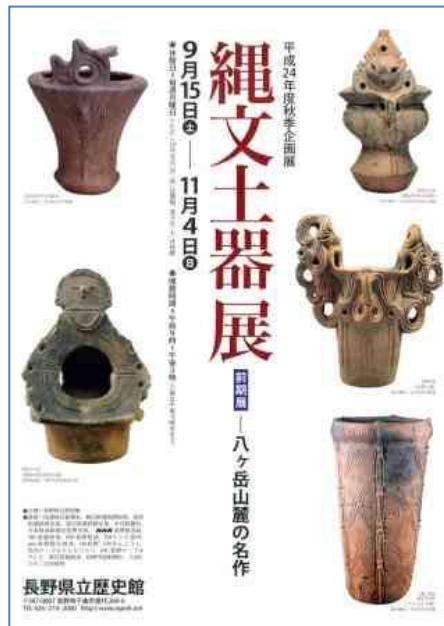
◆10月の「一般体力測定」実施について

日頃の運動不足解消に、体力測定は如何でしょうか？無料で体力測定を受けられます。ふるって御参加ください。10月の測定実施日は3日（水）、30日（火）となっています。なお、事前に申し込みが必要になります。お問い合わせ先は「こちら」

◆長野県立歴史館 秋季企画展 縄文土器展（前期）～八ヶ岳山麓の名作～

縄文時代の長野県は、八ヶ岳山麓や千曲川流域などに地域色の強い文化が繁栄しました。八ヶ岳山麓では、約5千年前の縄文時代中期に「縄文王国」といわれるほど多くの集落が営まれ、造形的に素晴らしい土器が作られました。

今回の企画展は、前期・後期と展示替えを行います。前期展示では八ヶ岳山麓の美しく力強い縄文土器を紹介します。



（常設展共通）観覧料	観覧料	休館日	開館時間	開催期間	場所
◇◇◇ 小高大人 ・・人 ※中大学生 （125 は250 2000 0円円円 名（（（ 以124 上000 の000 団円円円 体（（（	無料	毎週月曜日、祝日の翌日 (11月4日は開館)	午前9時から午後5時まで (入館は午後4時30分まで)	9月15日（土） ～11月4日（日）	長野県立歴史館

※次の方は無料です。

- ◇平日、学校の教育活動として観覧する県内の小・中・高生
- ◇身体障害者手帳などの交付を受けている方とその介護者
- ◇土・日曜、祝日及び振替休日に観覧する小・中・高・特別支援学校生



◇縄文体験教室		
10月21日 (日)	10月13日 (土)	10月7日 (日)
土器を持とう、そして描こう2	土器づくり体験	土器を持とう、そして描こう1

◇講座		
講 師	演 題	開 催 日 時
県立歴史館 主幹学芸員 三上徹也 誠氏	縄文土器、展示と鑑賞の歴史	10月6日 (土) 午後1時30分～

◇講演会		
講 師	講 演 会	開 催 日 時
新潟県立歴史博物館名譽館長 小林達雄 氏	八ヶ岳山麓の縄文土器(仮) 第10回尖石縄文文化賞受賞者 三上徹也 氏	10月20日 (土) 午後1時30分～

◇講演会

9月29日 (土) 午後1時30分～

中部地方の縄文文化(仮)

新潟県立歴史博物館名譽館長
小林達雄 氏

■お問い合わせ

県立歴史館 総合情報課

〒387-0007 千曲市屋代260-6

TEL : 026-274-2000 FAX : 026-274-3996

e-mail : rekishikan@pref.nagano.lg.jp
ホームページ <http://www.npmh.net/>

◆大人の遠足 「木曽路の文化財を訪ねる」

事前学習と現地見学により、信州の各地の歴史を学ぶシリーズの2回目です。事前学習では、木曽の姿を表現した地図や錦絵をひも解き、木曽の成り立ちから江戸時代までの歴史を学び、現地見学では、奈良井宿や平沢地区の町並みを訪ねます。

※事前学習・現地見学ともに事前の申込みが必要です。

◇事前学習 第1回

講 師	開催日時
長野県立歴史館 総合情報課長 福島 正樹	9月27日(木) 午後2時から4時まで

◇事前学習 第2回

講 師	開催日時
長野県立歴史館 専門主事 山崎 会理	10月4日(木) 午後2時から4時まで

◇現地見学 「木曽路の文化財を訪ねる」

受講料	講 師	見学場所	集 合	開催日
一般4,500円(施設入館料・昼食・ バス代等含む)	長野県立歴史館職員・現地学芸員ほか	木曽漆器館・漆工町・木曽平沢、(昼食:奈良井宿)須原宿、定勝寺ほか	松本駅前	10月11日(木)

■お問い合わせ

県立歴史館 総合情報課

〒387-0007 千曲市屋代260-6

TEL: 026-274-2000 FAX: 026-274-3996

e-mail: rekishikan@pref.nagano.lg.jp

ホームページ <http://www.npmh.net/>

目次へ
戻る

◆「心の教育・長野フォーラム2012」を開催します

長野県教育委員会・長野県道徳教育振興会議では、子どもたちに豊かな心をはぐくむために、4つの実践的な活動（1・本を読む、2・汗を流す、3・あいさつ・声掛けをする、4・スイッチを切る）を進める「共育」クローバープランに取り組んでいます。

本年度は、「豊かな心をはぐくむ人間関係づくり」をテーマとし、『大人が子どもと共に育つために』という視点で語り合い、明日からの家庭生活や教育実践に新たな展望を拓く「心の教育・長野フォーラム2012」を開催いたします。

開催日時	場所
10月13日（土）午後1時30分から4時45分まで	長野県総合教育センター

◇基調提案

家庭・地域・学校での心の教育を進めるための、「共育」クローバープランの誕生に関わった経験から、その原点に立ち返り、家庭・地域・学校が子どもたちに豊かな心をはぐくむために、「子どもと大人が共に育つ」ことの大切さを提案していただきます。

講師	演題
斎藤金司（現松本市教育委員会教育委員長）、元長野県教育委員会教育委員会教員	「共育」クローバープランで、子どもと大人が共に育つ

◇分科会

大人と子どもが共に育つとはどういうことか、お互いの考えを出し合ったり、いろいろなお話を聞いたりしながら考え合います。

第1分科会 若者の自己有用感をはぐくもう	第2分科会 読み聞かせから、子どもとのつながりをつくろう	第3分科会 子どもの悩み、大人の悩みから、子どもの見方や自分たちの見方を考え合う	第4分科会 子育ての悩みを語り合い、つながりを考え合おう	第5分科会 市町村にある豊かな心をはぐくむ取組をどう広げるか考え合おう	第6分科会 子どもと共に育つためのアイデアを提言していこう
-------------------------	---------------------------------	---	---------------------------------	--	----------------------------------



目次
戻る

あとがき

メールマガジン10月号をお送りします。

みなさん、「技能五輪」、「アビリンピック」をご存知ですか？

「技能五輪」は青年技能者技能競技大会のこと、多方面の職種における満23歳以下の技能者の技能レベル全国一を競う大会です。上位入賞者は2年に1度行われる国際大会出場の道が開けます。

また「アビリンピック」は全国障害者技能競技大会のこと、満15歳以上の障害のある方々による技能競技全国大会です。優勝者は概ね4年に1度開かれる国際アビリンピックの代表候補となります。

「技能五輪」はものづくり産業の基盤を担う若年技能者のレベル向上と技能の重要性のアピールを、「アビリンピック」は障害者の職業能力に対する社会的理解を深め、雇用を促すことを目的としています。

この「技能五輪」「アビリンピック」が長野県で10月に開催されます。

ロンドンオリンピックに負けずとも劣らない熱戦が繰り広げられること間違いない！大会はどなたでもご入場いただけますので、ぜひ足を運んでみてください！（ひ）

＊＊大会日程＊＊

技能五輪：10月26日～29日

アビリンピック：10月20日～22日

<http://www.waza-can.com/nagano-skills/>

- ◆◆◆◆◆
平成25年度長野県立高等学校実習助手採用選考情報を掲載しました
- ◆◆◆◆◆
第9回長野県教育委員会定例会を開催しました
- ◆◆◆◆◆
第9回長野県教育委員会定例会を開催しました
- ◆◆◆◆◆
現場レポートNO.8「熟議で学校を変える！」を掲載しました

◇参加について
どなたでも参加可能です。

なお、参加予定者は次のとおりです。
一般（保護者、市町村や地域で子育てに関わる方々、その他）

- ・市町村教育委員会の担当者
- ・教育関係者（幼・保・小・中・高・特別支援学校の教員）
- ・主催者（長野県道德教育振興会議委員、県教育委員会関係者）

■お問い合わせ

教学指導課 義務教育指導係

TEL 026-235-7434

FAX 026-235-7495

e-mail kyogaku@pref.nagano.lg.jp

目次
戻る